

令和7年度 第1回まちで暮らすネットワーク～地域生活支援部会～ 定例会 議事録	
日 時	令和7年5月8日（火）13：30～15：40
開催場所	保土ケ谷区役所2F 202会議室
出席者	【参加者】わおん/計画、リビットはうす横浜/GH、瀬谷区発達障害理解啓発グループ ant mama、銀河和田町/就労 B、あさぞら/重度訪問介護、光の丘/二次相談、恵和めぐみ/GH、コペルプラス天王町/児童発達、横浜市自閉症協会、のぼら園/入所・生活介護）、保土ケ谷区在宅医療相談室、恵和/計画相談、リンクよこはま/訪看、いわまワークス/自立生活アシスタント、ユーススタイルケア/重度訪問看護、いんどり西横浜/自立訓練、夢 21/GH・生活介護 【事務局】夢 21、十愛病院、区高齢障害支援課、基幹相談支援センター、恵和青年寮）、生活支援センター（※部会長） 【事例提供】山口氏（夢 21） ※計 31 名
欠席者	みらいライフ/居宅介護、いわまワークス/自立生活アシスタント、ほどがや希望の家
開催形態	公開（傍聴人： 名） ・ 非公開
議題	◆事務局メンバー 来られる人は 13:00に 区役所 202 会議室へ集合 ①進行の確認 ②会場レイアウト準備、受付準備 ③プロジェクター準備 (4 グループの島を作った) ◆名簿、名立て、各 G の記録用紙、筆記具、拠点資料⇒基幹相談で準備 ◆次第⇒生活 SC で準備 ◆プロジェクター⇒区で準備 ***** (1) 本日の流れ、自己紹介 13:30～13:37 ※司会 部会長 ・令和7年度第1回の「まちで暮らすネットワーク 地域生活支援部会」 【本日のテーマ】 ・本日の内容は、本日は夢 21 の山口さんから「強度行動障害の状態にある方を地域の GH で受け入れた事例」を提供していただき、皆で話し合う。 ・強度行動障害だけでなく、地域では支援の難しいと思われてきた方に対して山口さんの言葉をお借りすれば「どのようにつながり励まし合いながら、その方の生活を支えていくか」を考える機会としたい。 【自己紹介】 ・まずは自己紹介から。令和7年度の部会の事務局メンバーです。 (各自、所属とお名前) (2) “まち暮ら”部会 令和7年度計画 13:37～13:40 説明：基幹相談 ・もともと R8 年 3 月に年度最後の部会を予定していたが、1 年の振り返りをして次年度計画を立てる関係で、2 月に繰り上げた。 ・強度行動障害をテーマにした WG を立ち上げる予定だが、コアメンバーで何をす

るか話し合う、活動の方向性が決まるまで少しお時間ください。

- ・今年度の部会目標について ⇒生きづらさのある方を対象とし、分野横断で「まちで暮らす」を考える。 資料1（両面コピー）

(3) 地域生活支援拠点について 13:40～13:50 説明：基幹相談

- ・生きづらさのある人の地域生活を支えるために、地域生活支援拠点という考えがある。障害のある方自身が高齢になったり、障害が重度化したり、保護者が亡くなった時に困らないよう、皆で仕組みを考えませんか？というもの。
- ・横浜における地域生活支援拠点とは… 資料2（パワーポイント）

(4) 事例説明 13:50～14:15 （25分） 資料3(ケース概要)

事例提供者の山口氏(夢21)より、パワーポイントで説明。

- ・事例説明 夢21福祉会ホーム 山口さんから（説明 10分）
- ・事例内容 県内入所施設から地域移行し、GH で暮らしている強度行動障害の状態にある方

【山口氏】

①知的障害・行動障害のある子供を、親が絞め殺した事件の新聞記事を紹介。

★このような悲惨な事件が繰り返されないように、支援者が何を出来るか。

②事例紹介

…事例としては、県内入所施設に 20 年以上入所するも、支援アドバイザーが入ったことで地域移行の機運が高まり、1年間の体験利用を経て、保土ヶ谷区内のGHに入居された 40 代男性。現在 1 年 7 か月目だが、今年春にGH内での壁蹴りが激しくなり、アパート生活へ一時的に移行。職員とのマンツーマン生活を始めた。GW中にアパートの改修のため、もともと住んでいた入所施設でSS利用中。

1 年 7 か月の間に、構造化するなど関わり方を見直して落ち着いて、また不穏になってを繰り返しているが、最終的にはGHでの集団生活を目指して、「地域での当たり前の暮らしをする」ことが目標。

③支援課題

…入居後 8 か月後から壁蹴りが始まり、構造化でいったん落ち着いたが、その数か月後から昼夜逆転や大声が挙がるなど起きる。マニュアル化の弊害、構造化により多様な人との関りが減った事も遠因か。現在は GH からアパート生活でエスケープ中だが、いずれは集団に戻っていけるのが当面の目標。

★★どうしたら行動障害の状態にある方と関わることに前向きになれるか皆で考えたい。

★★支援技術の検討で、こんな支援が出来れば、という各論でなくてよい。

(5) I 問I答 14:15~14:20 (5分)

- ・会場参加者からの1問1答で、ケースについての疑問質問。

(6) グループワーク 14:20~15:05 (45分)

<強度行動障害者の地域生活を支える疑問質問やアイデアを話し合う>

【司会より】

- ・今回のワークの目標＝「地域移行」についての意識や課題観を共有。
こんなことが出来るのでは？などアイデアを話し合い、
議論のできる土壌をつくる。
- ＊ケースから感じたことを共有
- ＊こんなことが出来るのではないか アイデア出し
- ＊地域移行についての課題や疑問など …それぞれの立場から自由に話す
- ・各グループ毎に、記録者を決め、各自自己紹介してからワーク（約 45 分間）

(7) 全体共有 15:05~15:20 司会:矢田

※4グループとも、ファシリよりワーク内容を発表

【1G】

- ・強度行動障害の状態にある方を受け止める準備が十分だったか、議論になった。
- ・入所施設から地域に利用者を移行するための引継ぎのノウハウが未確立では？
- ・地域で受け入れるためには、職員側にも「ただ頑張る」だけではなく、明確な目標設定が必要ではないか。目標なき支援は行き詰まる
- ・事例の方は GH⇒1人暮らし アパートオーナーの理解も重要ポイント
- ・ネットワークを広げるのが重要ではないか
- ・ガイヘル研修等で、支える側のすそ野を広げる必要があるのでは？
- ・障害福祉の支援者は、枠組みを作ってから支援する傾向にあるが、高齢分野では支援者が走り出してからチーム編成を考える事が多い。参考になるのでは？
- ・横浜市に対しても現場の声を上げていくのが必要

【2G】

- ・1人の人を支えるのに、複数の職種や同じ法人でも複数事業所が関わっているのが大事だと感じた。
- ・強度行動障害の状態にある方の地域移行のための「受け皿」が足りない。
- ・病院に入退院しながら、地域生活を続ける精神障害者のように、ショートステイをもっと使えるようになれば、その方の生活が豊かになるのではないかと
- ・強度行動障害の状態にある方の地域生活を理解できる場や機会を作っていくこと

が必要。

- ・何が支援の正解なのか、事例の方の場合は、ご本人がその「行動」をもって教えてくれていると感じられた。

【3G】

- ・（地域生活支援）拠点として、その枠組みの中で人材育成していくことが必要ではないか
- ・地域の中に、入所施設の実践やノウハウを学ぶ機会があるとよい。
強度行動障害の状態にある方の支援について蓄積のあるのは入所施設。
- ・（当事者の親の意見として）子ども時代からの予防の視点。また介入の必要性もある。また根拠のある介入をするのはアセスメントも欠かせない。
親元から離れて暮らすためには。地域の人たちに「こういう障害児者がいること」を発信していく必要があると思って活動している。
- ・支援者が頑張りすぎなくても済む仕組みづくりが大事では？
- ・行政に対しても、現場の声、ニーズを伝えていく。

【4G】

- ・サービスからはみ出した部分がないと難しいよね、ということが地域移行にはあるが、サービスのすき間を埋めるにはやはり「ネットワーク」が大事では？
（入所施設と GH や在宅の支援者が連携して、必要な時に短期でまた入れるよ、とかの橋渡しができる。あるいは情報発信や共有ができるのが大事）
- ・将来的なことを考えると、福祉だけで地域移行のための資源（人的・物的）を賄いきれない。特に余暇支援や移動支援。福祉分野以外への働きかけ必要。
- ・本人目線で言えば、施設から地域に出ていった時、すべてをイチからやり直さなければならぬことを支援者も理解したい。
もう少し、なだらかに地域移行できると良い。
- ・さらに地域移行の際に、アセスメントの重要性が非常に高いと、事例を通じて痛感した。
- ・家族目線で言うと、子どもを入所させることへの葛藤があることを支援者も理解してほしい。支援者としても、受け止めたい。

(8) 事例提供者、家族から感想 15:20～15:30 司会：矢田

・夢21 山口さん(事例提供者)

…○最初の事例説明の時に話しきれなかったところを補足したい。

入所施設からのアセスメント共有は行なっていたが、施設での本人の生活と GH に入ってから地域生活が違ふのは当たり前のことで、もらっていたアセスメントが生かせなかった。環境が変われば、行動が変化することを考える必要あり。

○地域移行する際に、家族が背中を後押しされる条件があり、今回のケースでは GH に入るのだけれども、施設の SS が使える（支給決定される）条件になっていた。KP の父も、「地域移行してうまく行かなかったらどうするか」を非常に気にしていた。

地域移行させたいということなら、保険として SS が使えるというのは大事なポイント。

○受け入れ側の法人が、GHで上手くいかなかった時のために【エスケープ用のアパート】という選択肢があったことも大きい。地域に第2の選択肢がある重要性。

○支援の中では、【グラデーション】をいつも考えている。

施設入所から地域移行となった場合に、当事者目線で言えば、住む場所だけでなく、あらゆる支援者が全て入れ替わってしまい、当事者が不安に思うのは当然。

少しずつ職員も切り替わるのが必要で、制度の支えも欲しいところ。

○支援にあたる職員の「ベクトルの向け方」。不安を抱えたままでは支援が長続きしない。不安を除いていくことを意識。

一方、支援の大変な人を受け入れる時、すべての支援者が「あの人は面倒だ。

関わりたくない」と思っているわけでもないことをこの事例で知った。

主体的に取り組みたいと思う支援者もいることを知り、抱え込み過ぎないことも

必要だとわかった。

・ant mama Yさん(当事者家族)

○地域の中で隣近所に障害を理解してもらうのが大事だと思っている。

○最初の山口さんの紹介した新聞記事にあった千葉の親子のケースでは、こんなに福祉が充実しているのに、そこからこぼれてしまう家族がいて、どれだけお父さんががっかりされたのかと、親の気持ちで考えた。

○本人(当事者)のことをどれだけ好きと言ってくれる人を増やせるかが地域移行のカギではないか

・横浜市自閉症協会 Hさん(当事者家族)

○子どもの幸せを願わない親はいない

○今日話を聞いて、子どもも幸せになってほしいが、支援している皆さんも幸せにいてほしい(頑張りすぎないで)と思った。

(9) 次回の案内、協議会からのお知らせ 15:30～15:40 司会：矢田

【協議会からのPR】 ※基幹相談

(1) 5月15日(木)14:00～16:30 第1回全体会

参加申し込みは、明日5月9日(金)17時まで！！

<https://www.shougai-fukushi-hodogaya.com/>

(お申し込みは、協議会HPのトップページに申し込みフォームがあります)

(2) 協議会に参加希望の事業所や個人の皆様へ 事業所情報・入力をお願い

こちらは期限は決めておりませんが、各部会の参加希望が入力できるようになっております。部会からのご案内も、この事業所情報(個人での参加もOK)をもとに登録しますので、ご希望の方はぜひご入力をお願いします。

<https://www.shougai-fukushi-hodogaya.com/>

(協議会HPのトップページに事業所情報入力フォームがあります)

【各参加者からの PR】

- ・十愛病院 訪問型勉強会
- ・横浜市自閉症協会 発達障害のある子のための就労ガイド
- ・ユーススタイルケア（重度訪問介護）

【次回予定】 ※部会長

・7月10日(木) 13:30～15:00「まちで暮らすネットワーク 地域生活支援部会」

テーマ: グループホームスタッフ交流会

会場: 保土ヶ谷区社会福祉協議会・多目的研修室(かるがも館)

※今年度の部会の活動予定は、令和7年度の部会計画書や、自立協ホームページにも
google の会議カレンダーがあります。ご参照ください。

※「まち暮ら部会」事務局メンバー皆様へ・・・

事務局会議 6月 12日(木) 15:00～16:30 場所: ゆめボランティアルーム

また、16:30～ 同じ場所でワーキンググループの第1回会議をおこないます



保土ヶ谷区自立支援協議会の HP QR コード(こちらからも入れます)